

# 敦賀気比保健だより

5月号 保健室

5月。空は澄んで、心地よい風が吹く季節です。新緑がまぶしく輝いています。自然は大いなる癒やしを与えてくれます。しかし、自然は時として人間にとって驚異となることがあります。今、私たちは、自然界の小さな生物と戦っています。そう、新型コロナウイルスです。



人間の特性を知り尽くしたかのように、隙を狙い撃ちして、蔓延していくウイルス。100年前のスペイン風邪と比較されますが、科学や医学が発展した現在でも、苦戦を強いられています。ウイルスに打ち勝つためには、科学や医学の力だけでは太刀打ちできないことを物語っています。人間一人一人の行動が、鍵となるということです。誰でもできる対策の一つにマスクの着用があります。

以下の文章は「2016年5月」に発行した保健だよりに掲載したものです。

マスクをめぐっては近年、かぜの予防や花粉症対策といった本来の用途ではない、「マスク依存症」「だてマスク」がはやっています。「マスク依存症」の人は「人と話すのが苦手な人」が多く、マスクが一種の防御壁のような役割を持たせてくれて、マスクによって「自信を持って人と接することができる」といった安心感を覚えるようです。

—2016年5月発行「きらきらぼし」より—



この頃は、「マスクをしてないで、ちゃんと顔を見せて」という主旨の話をしていました。その数年後に「マスクをしなさい!」「鼻までちゃんと隠して」ということを強く指導することになるろうとは、誰が予想できたでしょう?今や、マスクなしでは、公共の場に行くことはできない状況です。そして、自分と周りの人の命を守る重要なアイテムとなっています。例えば、現在、爆発的な感染拡大が起きているインドでは、その前の月には、「ウイルスとの戦いは終盤に来ている」と勝利宣言をしていたのです。そして、制限をゆるめて、宗教的なイベントを許可したところ、マスクなし、過密状態でイベントが行われ、現在の感染爆発が起きたとされています。まさに、人間の特性を狙い撃ちされた形です。

しかし、人間は、過去、何度も様々なウイルスとの戦いに勝利してきました。現代の私たちにも、できないはずはありません。この連休は、緊急事態宣言のもと、人と会うことや、会食もままならない状況となっています。しかし、せつかくのGW、少しなら…と気が緩みがちです。でも、

マスクは外さないでください。手を洗って下さい。人との距離を置いて下さい。

どうぞ、よろしくお願いします。

